

ホームルーム

模試の活用方法・今後の学習方針

今回のホームルームでは「**模試の活用方法・今後の学習方針**」について話したいと思います。

この時期になると、1次試験までの残り時間を気にして焦ってくる受験生が続出します。もちろん、焦ることでエンジンがかかって勉強が進むならよいのですが、そうでもない限り、焦ったところで勉強の効率が上がるわけでもないですし、何もプラスになりません。そこで、年末年始を迎えてこれからどのように勉強していけばよいのか、特に2月下旬からは模試も始まりますから、そのあたりの活用方法も含めて指針を示したいと思います。過去の合格者もこの時期を乗り越えてきているわけですから、ここでへこたれないように気を引き締めていきましょう！

模試の活用方法

1. 模試は必ず受けること！

そもそも模試を受けるべきなのかどうかについては、皆さんさまざまな考えがあるだろうと思います。「模試は絶対受けたほうがいい」という方もいれば、「模試を受けている時間があつたら普段の勉強を優先したほうがいい」という方も少なからずいらっしゃいます。

当然ここに正解などありません。模試で出た内容が本試験にも出題されれば「受けた方がよい」ということにはなりますが、その逆もあり得ます。そうすると「受けない方が良かった」となるわけですが、これらはすべて結果論にすぎません。**模試の内容自体を気にして受けるかどうかを考えるのは、ほとんど意味のないことだ**と思います。

では、模試を受けるメリットは何かといえば、以下の点にあるのではないのでしょうか。

- ① 大人数の中で問題を解くことによって、「試験慣れ」をすることができる
- ② 普段は気づかない自分の弱点を洗い出すことができる
- ③ 全科目を通して解くことによって、時間配分など内容面以外の要素をチェックできる

このような面からすれば、**模試は必ず受けるべき**です。確かに「模試は受けるのに時間が取られるし、その時間があれば自分で勉強していたほうがよい」と考える方もいますし、それも一理あるとは思いますが、それは模試の内容面にしか着目していない考え方だと思います。本番の試験は勉強内容や覚えた知識だけで結果が決まるわけではありません。**初見の問題を全科目通して解いた場合の時間配分や、試験会場での精神状态なども結果を大きく左右する**のですから、多くの受験生が集まった会場で受けることが非常に重要だと思います。

演習などでもそうですが、もったいぶってなかなか受けようとしなかったり、全範囲の勉強が終わってから受けようと後回しにしたりする方もいます。しかし**それでは意味がありません**。本試験に完璧な状態で臨める受験生は皆無といっていいでしょう。全範囲の勉強が終わってから…などといったと、勉強が終わらないまま試験日が来てしまって「模試が受けられなかった！」というネガティブな後悔だけを残したまま本試験に挑むことになってしまいます。**模試の内容面でのメリットはあくまでおまけにすぎない**という程度に考えておいたほうがよいでしょう。

それでは、上記①～③について、以下、簡単に模試の効用を紹介しておきましょう。

2. 模試を受けることで試験に慣れることができる！

「試験慣れ」しておくことは極めて重要です。普段は科目ごとに切り替えて勉強する方が一般的でしょうし、1問解くごとに答え合わせをして、気持ちをリセットしてから次の問題に進むことが多いでしょう。しかし、実際の本試験でそんなことはできませんから、**本番の形式に慣れておく**必要があるわけです。もちろん、多くの本試験を併願受験することによって「試験慣れ」をすることもできます。しかし、第一志望の試験が初めての本試験受験になってしまった場合、試験慣れをする機会もなくなってしまいます。ぶっつけ本番で受験するより、本番をシミュレーションしてある程度練習しておくことが必要ではないでしょうか。

「試験慣れ」で何より重要なのは、**時間が限られている中で問題演習をする**ということです。限られた時間の中で**追い詰められた精神状態で問題を解く**のは、普段の勉強のようにまったりと問題に取り組む心境とは全く異なります。多くの受験生が同時に集まった会場で、みんなが同じ初見の問題を解くという経験はなかなかできません。その意味では、受験人数のあまり多くない模試を受けても効果は小さいと思います。TACは本試験の傾向も分析していますし、公務員試験の模試としても最大レベルですので、是非TACの模試を有効活用してほしいと思います。

また、時間に限りがある以上、**科目ごとの時間配分も重要**になってきます。複数の科目をまとめて制限時間内に解かなければいけないわけですから、時間をかける科目・かけない科目のメリハリをつける必要があります。暗記系の科目であれば、思い出せなくてうんうん唸っていても答えは出てきません。ですから、すぐに解けるか解けないかを判断して、早く切り抜ける必要があります。一方、数的処理や文章理解などのように手間をかけないと解けない科目はじっくり時間を費やす必要があるわけです。このあたりの時間配分も意識しつつ、模試を受けるようにしてください。

3. 苦手科目や弱点となるテーマを洗い出すことができる！

まず大前提として考えてほしいことがあります。前述のとおり、模試を受ける段階ではまだ勉強の進んでいない科目の問題を解かざるを得ない状況になるかもしれません。その際に途中退出してしまう受験生をよく見かけるのですが、しかし、**初見の科目に全力で取り組むことをきっかけに「どう勉強していけばよいか」が判断できる**こともあります。頭を本試験の流れに切り替えていく強制力にもなるわけですから、**勉強していないから受けないという発想は非常にもったいない**と思います。「模試でいい点数を取ること」は確かに目標の一つにはなりますが、最終目標は「本試験でいい点数を取ること」です。模試はそのための手段にすぎないと考えてください。

また、模試で評価があまりよくないと「本試験でもダメなんじゃないか…」とわかりやすく落ち込む受験生がいますが、**模試の評価が低いこと自体を気にする必要はありません**。模試の評価はあくまでTACの講師が作成した問題を解いた際の評価であって、本試験を受験した際の評価ではありません。「模試の評価が低いと本試験も不合格になる」と短絡的に考えるのはやめましょう。もちろん「模試の評価がよい人は、本試験にも合格できる可能性が高い」といえます。しかし、だからといって「模試の評価がよくない人は、本試験に合格できる可能性が低い」ということは論理的には言えませんね。模試の評価がいくら悪くても、きっちり合格している人、受験した本試験の筆記を全勝する人はたくさんいます。**悪い評価を取ったのであれば、その後の勉強に反映させればよい**のです。「この経験をどうプラスにするか」を考えるべきだと思いますよ。

また、普段V問や過去問を解いているときは、1つの科目を集中して解くことが多いはずなので、あまり苦手意識を気にすることがないかもしれません。しかし、複数の科目を同じ制限時間のくくりの中で解くと、解きにくい科目が出てくることがあります。これは他の科目とセットで一気に解いてみないとわからないことです。ですから、**模試を受けて解きやすい科目やテーマ、逆に解きにくい科目やテーマがあれば、記録を残しておくことをオススメします。**問題に必死に取り組んでいると気が回らないかもしれませんが、**試験の最中に解いた感触を問題冊子に書き残しておく**と、復習の際に非常に役立ちます。復習の際に頭がまっさらの状態から再度解き直すのは、やはり時間がかかるものです。**復習することを見越して勉強効率を上げることも大切です。**

4. 時間配分などの勉強面以外の要素をチェックすることができる！

前述のとおり、模試は複数の科目を同一の時間内で解かなければいけません。ですから、早めにサクサクと解き進める科目、逆にじっくり時間を取って解く科目などに分けることができます。教養択一試験（基礎能力試験）の場合、多くの合格者が解き進める流れは以下のとおりです。

①一般知識分野 → ②文章理解 → ③数的処理

一般知識分野（人文科学・自然科学・社会科学・時事など）は覚えているかどうかでカタがつく科目が多いので、まずはここを素早く切り抜けます。続いて文章理解に取り組みます。文章理解は現代文や英文をある程度読む必要があるため、そこそこ時間はかかります。最後に数的処理でじっくり時間をかける、という流れです。

もちろん、この流れを絶対に守らなければいけないわけではありません。他の流れで解く合格者もたくさんいます。たとえば資料解釈の問題が確実に得点できるから資料解釈から解き進めるという方もいますし、このあたりはご自身の得意科目もふまえて検討する必要があるでしょう。どちらにしても、**自分に合った解き方の流れを事前に考えておく必要がある**といえます。

5. 模試は復習が一番大事！

今まで模試を受けるメリットを述べてきましたが、最大のメリットは、**模試の結果をふまえて自分の勉強方針を見直すことができる点**にあります。ですから、復習をしなければ意味がありません。模試で間違えた問題があった場合、本試験で同じ問題が出たら確実に取れるように復習しなければ、模試を受けた意味はないと言ってもいいでしょう。もちろん、すべての問題でこのような完璧を目指す必要はありません。しかし、全体正答率の高い問題を間違えたのであれば、これは周りの受験生に差をつけられてしまう問題ですから、必ず解けるようにしなければいけません。**間違えた問題で全体正答率の高いものを優先的に復習してください。**逆に、全体正答率が低い問題の場合は、本試験で出題されてもやはり多くの受験生が間違える問題ですから、そこでは差がほとんどつかないと考えていいでしょう。これについては後述します。

ちなみに、TACの受験生は基本的にレベルが高いので、それなりに正答率の高い問題でも、世間一般では正答率が伸びない問題だったということもよくあります。あまり模試の結果を真に受けすぎず、かといって軽視してほったらかすことなく、今後の勉強の材料として有効活用してほしいと思います。

今後の学習方針

1. 講義のカリキュラムを再確認して、今後の方針を立てよう！

受験生によって学習を始めるタイミングもバラバラなので、なかなか一概に言うのが難しいですが、少なくとも**講義を受け終わった科目、今後受けなければならない講義は明確にしましょう**。本試験までの残り時間もある程度見えてきたところだと思いますから、残り時間から逆算してどの科目にどれくらいの勉強時間が割けるのか、ある程度の目星も付けられるようにしたいところです。

教室生の方であれば、教室講義の日程表を参考にさせていただいて、まずは教室講義のペースを守れているかどうかが目安です。教室講義のペースに遅れを取っているのであれば、ここから少しずつペースを上げる必要があります。特に9月以降入学の方になると、これまでの講義の復習を済ませつつ、ここからは一気に講義が押し寄せてきます。本試験まで駆け込むような講義日程になりますから、Webフォローを普段から利用しているのであれば、是非有効活用してスキマ時間を講義の消化にあてるようにしましょう。

通信生の方は、WEB SCHOOLに学習進捗表がアップされていますので、そちらを参考にするとよいでしょう。もしくは、学習を開始した月の教室講義の日程表を参考にして、教室生のペースをつかんでそれに合わせて進めるのもオススメです。

どちらにしても公開模試は2月下旬から始まりますので、毎週末のように模試を受けながら、講義も受けながら、復習もしながら…となると相当忙しいスケジュールになります。**まだ多少は時間的な余裕があるうちに、少しでも講義を前もって受講してアドバンテージを取れるようにしておきたいところ**です。

2. 講義の穴を作らないようにする！

講義を受けるのが面倒になるとか、嫌気がさすことになるのはだいたいこれが原因といつてよいでしょう。**たまたま途中の1回だけ欠席したばかりに、次の回から出席しても内容について行けずに面倒になって講義に出なくなってしまう…**というケースは例年さんざん見かけます。当初はよく見かけた受験生がいつの間にかドロップアウトする原因でよくあるものです。

くれぐれもそういうことのないようにしましょう。普段の講義がわからないという状態なのに、途中の講義を欠席してわかるようになるわけがないのは当たり前です。基本的に講義は前から順番に受けることで理解できるように組み立てていますので（もちろん例外もありますが）、欠席したのであれば、一刻も早くリカバリーする必要があります。特に教室生の場合、他の校舎で振替受講するのもいいのですが、なかなかご自身の出席できるタイミングに講義がないことも多いので、そのためにWebフォローを使ってほしいというところもあります。いずれにしても、**欠席した講義は早く受講して補っておくことが重要**です。

3. 復習をほったらかしにしないこと！

講義を受けて復習をする…というのが筆記試験対策の大半を占めるので、これは必ずやらなければならないことです。しかし、講義が終わってしまうとたいていその科目は放置されがちで、特に今の時期になると、下手をすると何か月も取り掛からないでほったらかしになっていることもあります。当初は憲法がよくできたのに完全に知識が飛んでいた…という受験生も散見されますので、**講義がすべて終わった後も復習・定期的な問題演習は必ず繰り返すようにしてください。**

以下はオリエンテーションなどでも当初からずっと言い続けていることですが、科目によって復習の仕方は変えたほうが良いと思います。参考に見てみてください。

数的処理，文章理解 ミクロ・マクロ経済学 物理・化学などの知能系	とにかく毎日コツコツ進めることが大事です。 生活リズムに取り入れてしまうとよいでしょう。たとえば「朝起きたら数処を必ず1問解く」とか、習慣にしていくと継続しやすくなります。
法律系，政治系科目 財政学，経営学 生物・地学，人文科学などの知識系	集中してそれなりに時間を割いて内容を理解することが必要です。 連日やるよりは 一定程度放置 しましょう。定期的に引っ張り出して、直前期に細かいところを詰められるように「土台」を準備していきます。

4. まだ手付かずの対策を確認する！

特に皆さんの多くが積み残している可能性のあるものは、以下のような科目でしょう。

一般知識分野（人文，自然，社会，時事）	選択講義	論文	専門記述	面接
---------------------	------	----	------	----

面接は一次試験が終わった後からの対策で構いませんので、他の対策について考えましょう。

(1) 一般知識分野（人文科学，自然科学，社会科学，時事）

時事は講義が始まり次第，授業を受けてください。また，**社会科学**は専門科目を勉強しているのであれば，知識面では基本的にカバーできるので，V問に目を通しておきましょう。

問題は**人文科学**と**自然科学**です。試験種によって問題数が多少変わりますので，志望試験種によって取り組み方を変えるのがよいと思います。

東京都 I 類B 国家公務員	1問ずつしか出題されない ので， 的を絞った対策が必要です。 自分の得意な科目（少なくとも「見るだけでも嫌…」というほどでもない科目）をメインに対策しましょう。早めに勉強を開始した方には「一通り講義だけでも見てほしい」と指導することが多いのですが，この時期になるとある程度は「取捨選択」していくことも必要になるかと思います。 ただし，東京都の場合はボーダーが高くなるので注意が必要です。
特別区 I 類	20問中12問選択ですので，選択の幅はある程度広いといえます。裏を返せば選ばなくていい科目が多いともいえます。自然科学が物理・化学・生物・地学で2問ずつ出題されますので， 自然科学を重点的に対策しておく と効率的です。

地方上級 市役所上級	問題数からいっても、ひと通り勉強せざるを得ないといえます。関東型であればまだ選択の余地はありますが、全国型は全問必須解答ですので、選ぶことができません。自然科学は1～2問ずつですが、人文科学は2～3問ずつ出題されますから、これを軽視するのは厳しいでしょう。 講義を見てV問を進めるという地道な試験対策が求められると思います。といっても、そこまで対策しなくても結果的に合格するというケースも多いのですが…少なくともWebなどで講義を聴いて講義ノートに目を通すくらいはしておきたいところです。
-----------------------	--

(2) 選択講義（応用講義）

以前に実施したホームルーム「選択講義の取り方」を参考に進めてください。志望する試験種にもよりますが、**行政学・社会学・社会政策**はオススメです。

地方上級をメインに考えるのであれば、**労働法、刑法、経営学**や**国際関係**なども目を通せる限りは通すとよいと思います。ただし、労働法や経営学などは短期間でもある程度対応でき、直前でも間に合う科目でもありますので、現段階の勉強の進捗に合わせて、余裕があれば手を伸ばすという姿勢でよいかと思います。

(3) 論文

始める時期に悩む方が多いのですが、余裕があるのであればなるべく早めに取り掛かってほしいところです。一番まずいのは、ほったらかして試験の数日前になっていざ論文を書いてみて「全然書けないどうしよう…」というパターンです。東京都I類Bや特別区I類では（もちろん公表されていませんが）論文にそれなりの配点割合があると推測されています。ですから、まったく手をつけないというのはかなりの危険を伴います。

まだ余裕のあるうちに、実際に課題を書いて添削に出しましょう。ちなみに、解答例をそのまま書き写して添削に出す方がいるのですが、ペン字の練習ではないのですから、それでは意味がありません。**論述の型を理解したら、まずは自分なりに論文を書いてください。**そこから赤入れされた添削答案を見返して、少しずつ修正すればよいのです。最初から完璧を目指す必要はありません。また、**「自分の考え」を入れることも忘れないでください。**ひたすら知識に頼って自治体や機関の政策紹介に終始している限り、本試験での評価はなかなか伸びません。

もちろん、典型テーマごとの基礎知識（背景・原因、それにとまって生じる課題等）を、論文対策テキストやオプション講義の直前対策セミナーで配布されるテキストなどを使って仕入れるインプットも大切です。ただ、これも調べればキリがないので、知識については配布されたテキストの範囲に絞るのも一つの手です。そもそも知識の量が勝負がつく試験ではないですから、白書などをひたすら調べて満足することのないようにしてください。

(4) 専門記述

専門記述は国家専門職や東京都I類Bなどで出題があります。併願先としてこれらの試験を受けるのであれば、あまり力を入れすぎないようにしてほしいですが、志望度が高いのであればそれなりに対策しなければいけません。**出題形式にあわせて、論証のパターンや模範解答を**

覚えていくことになります。たとえば東京都 I 類 B は説明問題が出題されますので、代表的な論点・テーマについて模範解答の暗記が求められます。専門記述対策テキストやレジュメに掲載されている解答例、直前のオプション講義の予想論点などを頭に叩き込む必要があります。

覚え方は合格者によってさまざまです。ルーズリーフにキーワードを箇条書きにして覚える人、ICレコーダーやボイスレコーダーなどに自分の声で模範解答を吹き込んでひたすら聞き続ける人などいろいろな覚え方がありますから、自分に合った方法を見つけてみましょう。

5. すでに終わった範囲は弱点補強を徹底する！

講義が受講し終わった科目をほったらかしてしまう方が多くいますが、いくら得意な科目であっても完全に放置してしまうのは危険です。定期的に見直しをすることはもちろん、模試などで苦手なテーマをあぶり出したら、その補強もあわせて行うようにしましょう。その際も、なるべく優先順位を付けることが大事です。

前述の繰り返しになりますが、多くの受験生ができない問題（正答率の低い問題）はできなくても合否に影響がない一方、多くの受験生が解ける問題（正答率の高い問題）は確実に取っていかねばいけません。右のようなイメージを持って補強していきましょう。

正答率 自分	低い	高い
解ける	手間がかからないのなら強みにする	どんな出題のされ方でも解けるように
解けない	あまり気にする必要はない	まず最優先で復習！

6. 方向性の正しい努力をする！

これまであまり得点力の上がっている実感が湧いていなかった方や、演習を受けても点数が伸びないことに悩んでいる方も多かったかもしれません。しかし、直前期から勉強時間を増やしていけば、一気に実力はついてきます。直前期にはそれなりにエンジンもかかってモチベーションも高く勉強に取り組めるとしますので（というか、そうなってもらわなければ困りますので…）、少しの努力も惜しまないようにしてください。

そこで一点だけ注意してほしいのが、**正しい努力をすること**です。例年、数的処理の質問で幾度となく見かけるケースですが、V問を5～6周もしているのに模試の点数が伸びないという受験生がいます。もちろん本試験と模試は別物ですから焦る必要はないのですが、**V問を何周もしていて点数に結びつかないとなると、もしかすると努力の仕方が間違っているおそれがあります。**

数的処理は解法パターンを覚えているだけではダメで、それを使えるレベルにまで持っていく必要があります。たまた問題ごとに解法パターンを覚えている方がいますが、これはちょっと危険です。掲載されている問題はあくまで過去問として出題済みなので、全く同じ数値、同じひっかけ、同じ形でそのまま出るとは（基本的には）ないからです。特に「答えを覚えてしまってこれ以上回す意味がない」と考える方は要注意です。**覚えるべきは解法パターンとそこに至るまでの思考回路であって、答えではありません。**問題を見て「何のテーマかを判断し、着眼点を使って、どの解法パターンを使えばよいのか正しく判断する」という思考回路を確認する作業に重点をおきましょう。「この問題が出たらこう解く」という画一的な覚え方だと、本試験で初見の問題が出たときに対応できなくなってしまいます。まずは大きな着眼点を持ち、そこから具体的な

テーマに下りていって、そこで特有の着眼点・解法パターンを整理して「使える」ようにすることが大事です。V問の解説を、疑問を持たずに鵜呑みにしてしまうとこういう罠に陥りがちです。まずは**問題に向き合うときの思考の流れははっきりさせましょう**。このあたりは解説では端折ってあることも多いので、疑問に思ったところは必ず質問して解決するようにしてください。

7. 科目の穴はなるべく作らないほうがいいが、進捗次第では少し考えよう…

現状の学習の進捗状況次第になるのですが、早くから学習を始めたが基本講義の科目でも講義の受講ができずに大量に残っているとか、遅くから学習を開始していて講義がたくさん残っているという場合は、本試験までにすべて消化するのが難しくなってきます。もちろん、本来ならば「気合いを入れてすべて講義を受講して消化しなさい!」という指導をしますし、それでしっかり合格した方もいます。2月から勉強を始めて5~6月の本試験に間に合わせるという、かなり厳しいスケジュールでも過去に合格している方はいますので、不可能ではありません。



Advice!

このあたりは人によるでしょう。本試験までの日程が長いと、集中できずにだらけてしまう人もいますし、「おしりに火が付いた状態のほうが焦って集中できる」といって勉強を進めた結果、**一気に合格レベルまで伸ばせる人も少なからずいます**。ですから、ご自身でどちらが向いているのかを自覚しておく必要はあるかと思うのですが、やはりやってみないとわからないものですね。そうであれば早めに勉強を進めるのが一番いいわけですが…

そうはいつてもすべての科目をそれなりの水準に上げようとして中途半端に終わってしまう人があるのも事実です。ですから、この時期まで来たら、多少は科目を絞ることも必要ではないかと思えます。以下、あくまで参考程度ですが、この試験ならこのあたりは絞れるかな…という目安を紹介しましょう。ただし、**くれぐれも科目を「捨てる」ことを推奨するものではありません**。あくまで「力を抜く」「後回しにする」程度の意味合いです。「**広く浅く**」勉強するのが公務員試験の対策の鉄則ですからね!

国家一般職	教養：1問ずつの出題なので、絞り込みはしやすいでしょう。過去の勉強歴から判断して、時間がかかりそうな科目は後回しにしましょう。 専門：専門択一の配点割合が高いので、ここは積極的に他の受験生に差をつけたいです。したがってあまり絞りたくないのですが、絞るとすれば民法か経済学あたりでしょうか…政治系は難易度が高いですが、ここを選ばないと他に選ぶ余地がほぼないので、覚悟を決めましょう。
国家専門職	教養：国般と基本的には同様です。1問ずつしか出ないので、過去の勉強歴から判断して、時間がかかりそうな科目は後回しにしましょう。 専門：国家専門職も専門択一の配点割合が高いので、積極的に他の受験生に差をつけたいですね。なので、ここはできる限り絞りたくないところです。また、試験によっては必須科目があるので注意しましょう。国税であれば民法が必須、財務であれば憲法・行政法、経済が必須なので、もし絞るならそれをふまえたうえで考えてください。

裁判所一般職	教養：他の国家系と基本的に同様です。1問ずつしか出ないので、過去の勉強歴から判断して時間がかかりそうなものは後回しでしょう。 専門：裁判所以外は一切受験しないのであれば、憲法・民法・経済学だけでよいのですが、他を併願できないリスクは高いので注意しましょう。ちなみに経済学が難しいから刑法を選ぶという受験生もたまにいますが、法学部で過去に勉強したとか、過去に触れたことがあるとかであれば、選ぶ余地は十分あるでしょう。なお、過去に経済学がなかなか伸びず、短期間で刑法を勉強して本試験で満点が取れたという合格者もいました。しかし、その受験生は法学部出身の方でしたので、やはり初学の段階で始めるのはかなりリスクが大きいのでオススメににくい…
特別区Ⅰ類	教養：1科目2問ずつ出題される自然科学で安定させたいので、人文科学は最低限の学習にとどめるというやり方もよいでしょう。これもやはり過去の勉強の有無で判断してください。 専門：例年民法が難しいので、民法は控えめにしたほうがよいと思います。ただ、出題数が10問と多いので、前半(総則・物権)だけにするか、後半(債権・親族・相続)だけにするか、というメリハリの付け方をオススメします。また、民法を代替できる科目が必要になるので、少なくとも行政学・社会学あたりは学習すべきでしょう。
東京都Ⅰ類B	教養：さすがに全部広く浅くやらざるを得ないと思います。年によって合格ラインが上がるのがとても怖いところです…ただ、そこまで突っ込んだ内容までやらなくても、他の受験生が取ってくるような簡単な問題を自分も取れるようにすればよい、というだけなので、あまり深入りしすぎないように注意してください。 専門：専門記述の科目で、憲法+政治系3科目(政治学・行政学・社会学)は多くの受験生が準備するので、あと1科目は何か用意しておきたいです。東京都の志望度がダントツに高くして他にまったく行く気がないなら、そのリスクを覚悟で絞ることもできますが、さすがに怖いので、やはり基本講義の科目ぐらいは勉強しておきたいです。絞るならやはり民法を後回しにする程度でしょうか。ちなみに、東京都の志望度が高い人は、たいてい東京都の試験が終わった後で他の試験の専門択一に苦戦することになるので、専門択一を完全に放置しないようにしましょう。
地方上級	教養：1科目で複数問出るので(特に人文科学など)絞りにくいといえます。ただ、関東型のように選択解答の場合はある程度避けることも可能なので、まずは志望する試験のタイプを確認しましょう。 専門：経済の問題数が多いため、経済を後回しにするのはかなり厳しいです。一方、民法はボリュームのわりに憲法や行政法と比べて問題数があまり変わらないので、民法を後回しにするという戦略はあるでしょう。

どの試験であっても、**専門科目で後回しにするなら民法が経済学のどちらかになるだろう**と思われる。ご自身の志望度の高い試験もふまえながら、あとは勉強の進捗状況も考えながら、絞る科目を考えてみてください。ただ、そうはいつでも大半の受験生は多くの試験を併願しますから、絞りすぎはどちらにせよオススメできないかな…という結論ですね。

8. 学習進捗状況チェックシート

(1) 教養科目の講義受講状況・問題演習進捗状況

基本講義・受講状況

数的処理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
文章理解	1	2	3													

基本演習/実力確認テスト・受講状況

数的処理	1	2	3		実1	実2
点数						
文章理解	1					
点数						

一般知識講義/論文対策講義・受講状況

自然科学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	数学			物理			化学			生物			地学		

人文科学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	世界史					日本史					
	11	12	13	14	15	16	17	論文 1 2 3 演			
	文化史		思想		地理						
社会科学 (フル)	1	2	3	4	5	6	7				
	政治					社会					
	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	法律					経済					

一般知識演習・受講状況

自然科学	1		
点数			
人文科学	1		
点数			
社会科学	1	2	3
点数			

実力確認テスト・受講状況

教養	1
点数	

講義を受講した回数の箇所に受講した日付を書くなど、使い方はお任せします。講義全体の中でどこまで終わっているかを確認するために使ってください(受講済かどうかはマイページでも確認できます)。

教養科目では、**数的処理・文章理解は必須**です。一般知識分野についてはこれまでの話をふまえて、メリハリをつけて学習を進めましょう。時事対策は3月下旬以降講義がありますので、そちらも必ず受けてください。論文や面接にも役に立つことがあります。

時事対策・受講状況

経済史・経済事情	1	2
社会事情	1	2
国際事情	1	

講義ノート/テキスト・問題演習進捗状況

数的処理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
文章理解	1	2	3													

V問題集・問題演習進捗状況

(基本講義)

数的処理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
文章理解	1	2	3													

(一般知識講義)

自然科学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	数学			物理			化学			生物			地学		

人文科学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	世界史					日本史				
	11	12	13	14	15	16	17			
	文化史		思想		地理					

社会科学	1	2	3	4	5	6	7			
	政治				社会					
	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	法律					経済				

(2) 専門科目の講義受講状況・問題演習進捗状況

基本講義・受講状況

憲法	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
民法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
行政法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
ミクロ経済学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
マクロ経済学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
財政学	1	2	3	4	5	6								
政治学	1	2	3	4	5	6	7							

基本演習・受講状況

憲法	1	2
点数		
民法	1	2
点数		
行政法	1	2
点数		
ミクロ経済学	1	2
点数		
マクロ経済学	1	2
点数		
財政学	1	
点数		
政治学	1	
点数		

実力確認テスト・受講状況

専門	1
点数	

講義を受講した回数の箇所に受講した日付を書くなど、使い方はお任せします。講義全体の中でどこまで終わっているかを確認するために使ってください(受講済かどうかはマイページでも確認できます)。

専門科目では、どの試験を受験するにあたって**基本講義の科目が土台になります**。メリハリづけについてはこれまでの話をふまえてください。後回しにできるもの、直前期でも付け焼刃で得点できるものもありますので、こちらでも優先順位をつけるのが大事です。

選択講義・受講状況

労働法	1	2	3	4		
刑法	1	2	3	4	5	
行政学	1	2	3	4	5	6
社会学	1	2	3	4	5	
国際関係	1	2	3	4		
社会政策	1	2	3	4		
経営学	1	2	3	4	5	

発展講義/専門記述対策講義・受講状況

法律科目	1	2			
経済科目	1	2	3	4	
政治科目	1	2	3	4	5

法律系記述	1
経済系記述	1
政治系記述	1

V問題集・問題演習進捗状況

(基本講義)

憲法	1	2	3	4	5	6	7	8	9								
民法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
行政法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
ミクロ経済学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
マクロ経済学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11						
財政学	1	2	3	4	5	6											
政治学	1	2	3	4	5	6	7										

(選択講義)

労働法	1	2	3	4													
刑法	1	2	3	4	5												
行政学	1	2	3	4	5	6											
社会学	1	2	3	4	5												
国際関係	1	2	3	4													
社会政策	1	2	3	4													
経営学	1	2	3	4	5												

参考:令和4年度の1次試験日程

令和4年度(2022年度) ※2021.12.8 判明分	
4月 24日(日)	国家総合職(院卒・大卒各区分)
5月	1日(日) 特別区I類
	東京都I類B(一般方式・新方式)
	7日(土) 裁判所一般職(大卒)
	8日(日) 東京都I類A・警察官(5月)
	14日(土) 国立国会図書館(総合職・一般職)
6月	5日(日) 国税専門官・財務専門官・労働基準監督官 食品衛生監視員・皇宮護衛官・航空管制官
	11日(土) 外務専門職(1日目)
	12日(日) 国家一般職(大卒)・外務専門職(2日目)
	26日(日) 地方上級(県・政令市)・市役所A日程
7月 10日(日)	市役所B日程・警察官(7月)
9月 18日(日)	市役所C日程
10月 2日(日)	国家総合職(法務区分・教養区分)

※網掛け部分は現段階で未発表ですが予想される日程です。
 ※正式発表されていない試験種が数多くあります。詳細は各
 試験種のホームページ等をご確認ください。

令和4年度(2022年度)は、令和3年度(2021年度)とほぼ同様の試験日程になるものと推測されます。すでに発表済みの日程(国家総合職・国家一般職・国家専門職)が昨年と同様ですので、おそらくこの日程に合わせて他の試験種も実施してくるものと思われます。

ただし、一部の試験種では日程を変更する動きもあります。たとえば愛知県は、従来の地方上級試験の日程(例年であれば6月第4日曜日)から1か月ほど前倒しして、5月中下旬に1次試験を実施する旨をすでに告知しています。

※参考:

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/jinji-syokuin/nittei-maedaoshi.html>

受験予定の試験情報は必ずホームページで定期的にチェックするようにしてください。

多くの試験は従来のスケジュールを踏襲してくると思われますので、それをふまえて今後の対策を進めていきましょう。ただし、今後突然延期や変更があるとも限りません。臨機応変に対応できるようにしてくださいね。

ここ数年いえることですが、**多くの試験で日程がばらけているために併願しやすい状況が続いています。**したがって併願戦略は立てやすいといえますが、裏を返せば、各試験種の**受験者数が増えて倍率が高くなる可能性が高い**ということでもあります。油断せずに筆記試験対策に臨んでいただきたいと思います。令和4年度試験日程の詳細は、3月下旬頃実施予定の「試験説明会」のホームルームでも紹介予定です。